

KTK

NO. 87

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道 42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



障害者権利条約批准

「だれもが平等・公平」 保障する社会を！

力を合わせて、新たなスタート



昨年12月、JR長岡京駅前
で、「きょうされん」口乙プロ
ックの事業所の皆さんと一緒
に街頭活動を行いました。

〔関連記事 9頁もお読みく
ださい。〕

さきの国会で、「障害者権利条約」が
全会一致で批准されました。
この条約は、福祉や教育、雇用、地
域生活、政治参加などあらゆる分野で、
障害のある人も、ない人もわけ隔ての
ない社会の実現をめざす、意義深い条
約です。
この間、障害者基本法の改正や障害
者差別解消法が制定されましたが、障
害のある人たちとその家族のくらし
は、まだまだ厳しい現状にあります。
条約の批准が形だけのものにならな
いために、法律や制度がさらに改善さ
れるよう力を合わせましょう。



10月27日、障害福祉センターあらぐさを会場に、「みんなおいでよ あらぐさひろば」が、あらぐさ後援会の主催で開催されました。

台風一過の好天に恵まれたこの日、家族やヘルパーさんと一緒に参加したあらぐさの利用者さんや乙訓地域の福祉の事業所に通われている皆さん、チラシなどでこの催しを知って来られた親子連れの近所の方々、後援会員さんなど、500名を超える方々の交流の一日となりました。

昨年に引き続き、長岡京金管五重奏団の皆さんによる迫力ある演奏で開幕。模擬店には、向日が丘支援学校の先生による恒例の焼きそば、西山短大の学生さんによるたこ焼きやフランクフルト、クレープ、障害児学童保育「がんばくらび」のお母さん方のおでん、青年サークル「げんごろう」さんの飲物、あらぐさの職員による喫茶や綿菓子、焼き鳥、カレーの店が並びました。どの店にも長い列ができ、早々と売り切れ、急ぎよ事務局がおにぎりなどを買出しに回るといってハプニングもありました。

京都西山ロータリークラブさんとあらぐさ会さんによるバザーも盛況で、テントに





「大切な交流の場です」

「1年に1回、ここで出会える人も」

は、お目当ての品物を探す人の輪が二重三重にできました。「男の居場所の会」の皆さんの、空き缶の風車や美しい多色刷りの版画カレンダーは、来場者の目をひきました。あそびのコーナーは、どこも子どもたちの人気を集めました。また乙訓医療生協の皆さんによる健康チェックも骨密度や体脂肪の測定、健康相談に列ができました。

中央に設けられた席には、思い思いの昼食をとる人や、久しぶりに出会う話はずむ人たちで賑わいました。「1年に1回、このひろばで出会う人もあり、私には大切な交流の場です」と話される方や、「地域に根差した障害者運動を粘り強く進めて来たあらくささんらしい取り組みだ」と言われる参加者もありました。

フィナーレはお楽しみの「大福引会」。名前が読み上げられるたびに歓声があがり、5等から特等「焼豚」、特別賞まで総数約30本の景品が参加者に渡されました。

駐車場のご提供、模擬店や各種コーナーにご協力いただいた団体や個人の皆さん、駐車場や交通整理など裏方を担っていただいた方々のお陰で、楽しい一日を過ごすことができました。



毎日一緒に過ごす仲間とともに

——たくさんの人々に支えられて——

今回は、障害福祉センターあらぐさに通う
伸明さんのお母さんから、原稿を寄せてい
ただきました。

命の危機を脱して

1985年1月8日誕生。陣痛が次第に
強くなってきた頃、急に胎児心音が悪くな
ったので緊急帝王切開を行うと切迫した声
で告げられ、分娩室から手術室へ。重度仮
死産でした。

生後、命の危機を乗り越えたあと、早期
療育を開始する判断をし、3月に聖ヨゼフ
整肢園でのボイタ訓練を開始しました。

生後すぐ駆けつけてくれた友人がたくさ
ん持ち込んだ本を読んだり情報を集めたり
する中、6月にはびわこ学園（移転前の大
津市にあった）の高谷先生の診察を受けま
した。先生の「この子の障害は重い。いい
病院とか、もとに戻すとかいう発想はやめ
て、今のお医者さんや訓練士にしがみつい
て、この子のために全力を出してもらおうよ
うな結びつき方を」との助言に目がさめた
ような気がした事を鮮明に覚えています。
脳性まひの子どもには難治性でんかんが出

やすいと聞いていたとおり、8月には点頭
てんかんの発作がみられ、吉祥院病院の「小
児神経外来」に入院。橋本先生との長いお
つき合いがはじまりました。

共働きの家庭の子どもとして

母親の職場ではずっと「育児休職」「看
護休職」が懸案で、伸明の誕生を契機とし
て制度化されました（まだ国の制度はでき
ていませんでした）。1歳3カ月で向日市
立第3保育所に入所。障害は重いけれども
ほとんど病気せず、どこにでも一緒に出か
け、その頃使っていたバギーのタイヤの消
耗が激しくて訓練士さんに驚かれるという
こともありました。

向日が丘養護学校に入学する際、「放課
後をゆったりの過ごしさせたい」と協力者を探
しました。最初の方は看護婦さんで、小さ
いお子さんと一緒にスクールバス停で伸明
を迎え、我が家でおやつをたべて両親のご
ちらかの帰りを待つという生活が始まりま
した。保母さんをしておられた松島さん、
赤城さん、障害のある子どもを育てられた
富島さんと、本当に愛情を注いでいただき

出会いがあり、いまだに何かとお世話にな
っています（その頃は自立支援法はありません
でした）。

また、5月から、びわこ学園リハビリ外
来に通うことになり、今に至っています。

障害児学童保育と養護学校

養護学校入学と同時に、向日市の障害児
学童保育「がんばらクラブ」に参加。長期休
暇を「がんば」で過ごしました。「がんば」
は自主運営のため、開催場所の確保、運営
資金づくり、運営などみんなで力を合わせ
ることで成り立っています。Tシャツやト
レーナーの販売とか行政への要望書の提出
などいろんな活動をやりました。伸明がま
つくるに日焼けして楽しく安全に過ごした
こと、他の障害のあることもたち、学生指
導員たちが本当に成長していくことが楽し
みで、親も頑張れたと思います（父親は「が
んば」の代表を4回やりました！）。

養護学校4年生の秋、母親が入院。2週
間の寄宿舎緊急入舎をしました。夕方にな
ると37度台の熱がでて病院へ。橋本先生の
「お母さんがどこにいるかわからないので
不安に思っているんじゃないか。お母さん
の居場所がわかると落ちつくと思いますよ」
との意見で、母親に面会に行くと、その日
からすっかり落ち着きました。言葉では表

現できない伸明の葛藤と成長を見たように思い、印象深い出来事でした。

あらぐさへの通所

養護学校を卒業し、あらぐさに通所を開始。母親も早期退職し、地域の皆さんと力を合わせていろんな取り組みに参加する事が増えました。親の会やあらぐさ会（あらぐさに通所させている家族の会）だけではなく、乙訓圏域障害者自立支援協議会や向日市の障害者計画策定委員会などにも積極的に参加していききました。

伸明が、毎日一緒に過ごす仲間がいること、その中での安定した共感的な交流ができること、支えてくれる人に安心して依頼すること・・・。そうした健康で豊かな生活を送ることが伸明にとつての「自立」ではないかと思えます。

家族旅行の楽しみ

小さい時から、「豊かな自然をうんと味わうこと。ゆっくりした風とかやさしい音楽とか」との橋本先生の助言もあり、休暇には春夏秋冬自然の中へ出かけて行きました。

母親の友人のいるスイスにも楽しい旅をする事ができ、向うの日本人向けミニコミ誌（友人が編集発行している）にもその様

子が掲載されました。伸明に出会った人が優しく声を掛けて下さって、ヘルプ！というこの大切さを学んだように思います。

ここ8年ほどは木曾の開田高原に出かける事が定番になっています。温泉、親切なホテルのひとたち、美味しい食事、さわやかな風、と本当にいい出会いに恵まれています。

これからのこと

「乙訓障害者医療ネットワーク」を利用することで、主治医のびわこ学園の藤田先生と、日常の健康管理をお願いする地域の川勝先生の連携がなされ、医療面では安心な体制ができています。

少しずつ「いろいろり」でのショートステイを利用するようになって1年になります。夜眠れないなどの課題もたくさんあります。時間をかけて「安心な暮らし」を作っていくってほしいと思っています。

「どんなに障害が重くても生まれ育った地域で暮らし続けたい」という願いから、集合型ケアホーム作りの運動に皆さんと力を合わせてきました。「いろいろり」に入居できなかったり、違う生活スタイルを考えている人など、一人ひとりに寄り添った支援が求められると思います。一日も早くケ

アホームの運営が安定し、次期計画が立てられる事を切望しています。（増田弘子）

次の文は、伸明さんのお兄さんが2005年1月13日付北海道新聞・北見版『みずなら』に書かれた記事です。

感動分け合った成人式

実家の京都府で九日、弟の成人式に出席した。自治体の主催ではなく、さまざまな障害をもつ新成人を祝う「手づくりの成人を祝う会」で、十一回目となる。

周辺二市一町の新成人九人を福祉施設や保育所、養護学校で新成人とかかわった人など約百五十人が祝った。その名の通り招待状も、胸につける花飾りも手づくり。重い障害を抱え、命の危機を何度も乗り越えた人もいる。二十歳の日を迎えた感動は大きく、参加者が手をつないでアーチを作り九人を送った。

もともとは、障害のある子と一緒に自治体の成人式に出た親が、再会をはしやく若者ばかりの式に寂しい思いをし「一生の思い出となる成人式は、この子らが主人公の場をつくってあげたい」と、その翌年から始まったという。

普通の成人式を批判するつもりは全然無い。いろいろな形のお祝いがあったといい。「多くの人に育てられてここまで来た」とあらためて話す家族らの姿が印象的だった。

（増田智明）

西山体育館で 卓球を始めました。

「中川さんが、教えてくれるから」

『チャレンジ!!卓球クラブ』と出会ったのは、去年の秋。西山体育館で観客席まわりのランニングを終えたあとのことでした。体育館の半面を使って卓球をしていた中川栄一さんが、「卓球を一緒にしてみいひんか?」と声をかけてくださったのが始まりです。後日、チャレンジ!!の開催日にテイセンター2（生活介護）のメンバーと職員が参加しました。

卓球台が並び中、チャレンジ!!の会員の

方々が、白熱しながら卓球を楽しんでおられます。初めての経験に、緊張しているメンバーもいましたが「さあ、やるか!」と中川さんが優しく迎えてくださり、卓球に挑戦することができました。

卓球台が並び一角に、誰でも練習できるようにと、ピンポン玉が次々自動的に出てくる機械が置かれています。そこでメンバーが、ラケットを手に、飛び出てくる球を真剣にみつめ打ち返します。

今は、定期的に参加させてもらっており、一回次に行ける時を心待ちにしています。

普段、仕事で忙しいワークセンター（就労支援B型）のメンバーも、運動クラブとして参加しています。チャレンジ!!に行く前日から、ラケットを振るシエスチャード「明日卓球行くぞ!」とアピールしたり、「明

日やな〜」「打つよー!」と意気込んだりする声が聞こえてきます。

楽しみがあるから頑張ろう

卓球の練習を重ねるごとに、上達していくメンバーの姿がみられ、中川さんからも「上手なってる!（メンバーの）お母さんに報告せなあかなあ」とほめていただいています。ラケットを持って打つメンバー以外は、床に飛んでいく球を拾っています



が、中には「打つのは好きだけど、球拾いはしたくない」というメンバーも・・・。他のメンバーが打っている姿を真剣に見て、「〇〇くん集中！おー、うまい」と応援もあっています。毎回、うまくなりたいう姿や、他のメンバーの上達を喜び姿等、普段とは違う新たな一面を発見します。

『チャレンジ!!卓球クラブ』とは出会ってまだ間もないですが、メンバーにとっては親しみのある楽しい活動となっています。楽しみがあるから頑張ろうと「メリハリのある生活」に繋がる活動の一つです。

また、思いもなかった中川さんとの出会いに感謝し、地域の方やお世話になっている方々との交流を大切にしていきたいと思えます。新しい経験ややりとりを通して新鮮な気持ちや普段と違う世界を感じ、よ



り生活を豊かにしていければいいなと思います。

中川栄一さんのこと

中川さんは、卓球を始めて約40年。『チャレンジ!!卓球クラブ』を3年前に立ち上げられました。モットーは「仲良く

楽しく卓球ができること」で、ボランティアで取り組まれています。「誰かが来てくれたらうれしい」と話され、いつでも誰でも入れるチャレンジ!!は会員数約百人だそうです。

何故、ランニングをしていたメンバーを卓球に誘っていたのだのかと聞いてみました。

中川さんはこう話されます。

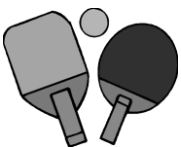
「障害の有無に関係なく、一緒にできたら楽しい。あらぐさのみんなが来てくれて嬉しい。卓球ができるようにさせてあげたい。色んなことができたらいいなあ」

そんな中川さんは、ラケットの持ち方から、一人一人丁寧にネットの向こうへ球を打てるようにと、ぴったりついて教えてくださいます。一度チャレンジ!!に参加した、メンバーの名前を覚えていただき、「〇〇さん来たんかあ!」「今日は〇〇くんおらんのかあ?」といった声をかけてもらいます。

チャレンジ!!を楽しみにしているメンバーにも「何で楽しみなんですか?」と聞いてみると、「中川さんが教えてくれるから」と口を揃えて返ってきます。

そんな優しい中川さんは、これからずっと『チャレンジ!!卓球クラブ』を続けたいと話されていました。

(三谷文菜・記)



あらぐさと私

花の活動のアドバイザー

草のたね 生活研究所
代表 森 口 誠 さん



5年程前に、西京区の温室で花を生産している男性から「高齢になったため、後を継いでみないか」とお話を頂きました。私は、施設の仕事を新たに創出する部門にいた関係もありこの温室がとても魅力的な働く場に感じました。しかし、当時働いていた施設は枚方にあり利用者の方々と通うのは難しく、この魅力的な場を何も行動しないまま断り

たくないと思いました。それで近隣にどんな施設があるかを検索し、あらぐさ福祉会に園芸活動の文字を見つければ「温室で花をつくられますか？」と電話したところがあらぐさと接点をもつキッカケとなりました。

話を重ねて行く中で植物を育てることがたくさんあるの新しい可能性を広げる機会になることを確信しました。

20歳頃、アメリカにある園芸を仕事にしている施設は、利用者が家を買える収入を得たり、重度とカテゴリー分けされている方達が立派に役割をもって仕事をしている事例を知りました。その施設を立ち上げた人から「私たちは目の前にいる人をコップに入っている水に例えるなら半分は水が入って、半分は新しいものが入る余地があると考えている。その人の限界はここまでだと、障がい故に水はもう入らないとこちらが決めてつけてかかるとその人の成長する余地を潰してし

まうと思う」と言われた話を聞いて、これはずっと忘れずにいたいと思ったことでした。

あらぐさで始めた花を作るといふ仕事は、ただ楽しい、幸せだと進んできたのではなく悩み、もがき、職員自身の考え方を調整することや、行き詰まること、もう無理だと思ふことの連続で進んできたかもしれせん。

ただどスタッフ(利用者・職員)が一丸となって新たな可能性を信じて生産してきた結果、育てた植物は人を幸せに喜ばせることができる素敵なものへと成長しました。その様子を見て人に喜んでもらえる幸せを体感できる機会を自ら作るというアクティブな福祉への一歩だと感じています。

障がいの有無を問わず、人に喜んでもらえることはとても幸せなこと。植物を作るプロの集団として成長して行くときに想像してもできないような新しい豊かな毎日につながっていくと今確信しています。

「相談支援センターみちくさ」がオープンしました

あらぐさ福祉会の新しい事業として、特定相談支援事業所「相談支援センターみちくさ」が開設されました。

障害のある方の相談に応じ、自立した日常生活や社会生活が営めるよう、必要な援助を行います。具体的には、サービス等利用計画の作成や支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）などを行います。



きょうされん

第37次国会請願署名・募金運動 ご協力のお願い

請願項目

1. 障害者総合支援法は、「骨格提言」にそって早急に改正してください。
 - 障害に伴う必要な支援は、原則無償とし、これ以上負担をさせないこと
 - 地域活動支援センターへの公費は、自立支援給付事業と同水準にすること
 - 事業所に対する日割り制度は、経営や支援を安定させる観点からあらためること
2. 介護保険優先原則を見直し、本人の希望で必要な支援を選べるようにしてください。
3. 一人の市民として安心して暮らせるよう、障害基礎年金額を引き上げてください。

あらぐさでは、今年も、5,500筆の目標で請願署名運動に取り組みます。署名用紙を同封させていただきましたので、ご協力いただきますようお願いいたします。（取り組み期間は、4月末までですが、3月末までに目標を達成したいと思っています。）

障害者権利条約が 批准されました

一口メモ

障害者権利条約とは、何ですか？

2006年の国連総会で採択されたもので、障害者に、障害のない人と同等の権利を保障することを批准国に求めています。

「条約」というのは、「憲法」と「法律」の間に位置づけられるもので、条約に反する国内の法律や制度は見直さなければなりません。

国会で批准されるとどうなるのですか？

日本政府は、2年以内に国連の障害者権利委員会に対して国内で講じた措置について報告し、その後少なくとも4年ごとに報告することが義務付けられています。

「批准がゴールではなく、スタート」という意味は？

障害のある人たちの現実の暮らしは、障害のない人たちと格差があることは明らかです。障害があっても、なくても、人間としての尊厳が守られるよう、社会保障制度や障害者施策の充実のために、条約の水準まで引き上げる新たな取り組みが呼びかけられています。

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

2013年8月23日～2014年1月9日 敬称略・順不同

栗倉窪金桐菊鎌門桂小小奥奥岡岡岡大大大大江浦上今今井井井因伊伊五石池粟粟天
 本橋島原生井田野 幡田村田谷田崎槻江江江ゆさち 三和治津え哲勝福憲昌紀土き
 子之子雄子誠子郎江子子子治鶴子子昭佳光りす哲子良郎子夫子み夫久男生美江郎み

匿 名 15 名	ば ん だ 企 画	乙 訓 教 職 員 組 合	安 藤 純 夫	西 村 裕 子	西 田 久 美	西 田 久 美	西 田 久 美	西 田 久 美	仲 本 幸 代	中 川 孝 子	中 川 孝 子	中 川 孝 子	内 藤 敬 子	内 藤 敬 子	都 出 と 理 誠	長 理 誠	長 理 誠	田 沼 一 郎	田 沼 一 郎	田 沼 一 郎	田 沼 一 郎	竹 下 千 代	竹 下 千 代	滝 川 幸 子	高 橋 嘉 幸	高 橋 嘉 幸	高 橋 嘉 幸	島 津 謙 二	佐 藤 久 子	佐 藤 久 子	阪 田 久 子	小 山 博 一	上 坂 愛 子	黒 木 サ キ
				渡 辺 裕 子	米 村 久 美	横 山 久 美	山 本 久 美	山 本 久 美	山 本 久 美	山 本 久 美	山 本 久 美	山 本 久 美	安 井 幸 子	安 井 幸 子	八 木 弘 子	村 木 清 子	宮 本 史 朗	峰 島 厚 子	南 橋 ゆ かり	三 橋 美 子	松 田 美 子	松 田 美 子	牧 原 紀 幸	前 川 明 雄	本 田 し る	藤 井 久 子	廣 瀬 彩 子	平 塚 洋 子	平 塚 洋 子	久 本 津 満	畑 本 健 二	長 谷 川 長 昭	橋 本 さ つ き	

創VI

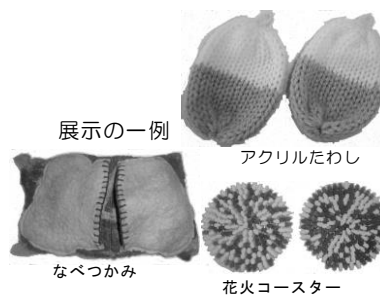
えがおの手しごと展

2014年

2月16日(日) 12時～18時

17日(月) 9時～18時

18日(火) 9時～15時



今年も長岡京市立産業文化会館であらぐさ作品展を開催します。毎日の活動の中で作りだした作品たちが集まる一年に一度のイベントです。今年のテーマは「キッチン」です。入場は無料です。ぜひおもしろいものを見つけにきて下さい。

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2014年2月9日発行
 KTK増刊通巻第4098号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
 京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信